

Periprosthetic Occult Fractures of the Acetabulum Occur Frequently During Primary THA

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2018-09-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00052034

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号 医博甲 第 2581 号 氏名 長谷川 和宏
論文審査担当者 主査 蒲田 敏文
副査 川尻 秀一
尾崎 紀之

学位請求論文

題 名 Periprosthetic Occult Fractures of the Acetabulum Occur Frequently During Primary THA
(初回人工股関節置換術中に発生する寛骨臼側インプラント周囲 occult fracture の検討)

掲載雑誌名 Clinical Orthopaedics and Related Research 2017 年掲載予定

初回人工股関節置換術のセメントレスカップ使用時に発生する術中の臼蓋側インプラント周囲骨折は比較的まれであり、これまで CT 画像を用いて評価を行った報告は少ない。本研究では、術後 CT 画像で術中所見や術後単純レントゲン写真では確認できないような occult fracture が寛骨臼側インプラント周囲に発生していることがわかったので、その評価を行った。当院で 2004 年から 2013 年にセメントレスカップを用いて設置した初回人工股関節置換術の症例 585 股(494 例)のうち、外傷性、骨盤骨切り術後、感染後などは除外した 486 股(406 例)を対象とした。術前診断は変形性股関節症 374 股、急速破壊型股関節症 11 股、関節リウマチ 20 股、大腿骨頭壊死症 69 股、その他 12 股であった。寛骨臼側インプラントとして PSL (Peripheral Self-Locking)型、半球型、楕円型の 3 つに分類した。PSL 型カップを 261 股と半球型カップを 222 股に用いた。術前術後の CT 画像を再構成し、axial、sagittal、coronal 像を用いて評価を行い、少なくとも 2 平面以上で骨折線が確認できるものを occult fracture ありと診断した。術中に確認できた寛骨臼側インプラント周囲骨折は 2 例(0.4%)であり、occult fracture は 41 例(8.4%)であった。また、occult fracture の発生部位を寛骨臼前壁、後壁、上外側、内壁、その他に分類すると、寛骨臼上外側に発生頻度が高かった。寛骨臼側インプラントとして PSL 型カップを使用した際に、半球型カップと比較し有意に occult fracture が発生していた($P < 0.05$)。occult fracture の発生頻度は 8.4%と高値であった。PSL 型カップの使用が occult fracture の発生の危険因子であった。また、セメントレスカップ挿入時に occult fracture が発生している可能性があることを認識することが重要であり、術中に十分な固定性が得られていれば、occult fracture は術後に治療を加えることを必要としないと考えられる。

以上、本研究は初回人工股関節置換術中に発生する寛骨臼側インプラント周囲 occult fracture について臨床的観点から詳細に分析し、その注意点を明らかにしたもので、本学の学位に値すると評価された。